

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と方策

利尻富士町教育委員会

本年度の全国学力・学習状況調査は、令和7年4月18日に小学校6年生を対象に国語・算数・理科、中学校3年生を対象に国語・数学・理科の教科で実施されました。以下、「結果の概要」と「今後の方策」について報告いたします。

I 結果の概要

1 小学校6年生～国語・算数は全国との差が広がり、理科は同率となる～

【概要】利尻富士町の小学校の平均正答率は、すべての教科で全国平均を下回り、その差は昨年度と比べて広がっていますが、全道と比べると同程度となっています。

【国語】平均正答率は全国と比べて **2.8p低い64%**です。昨年度は全国平均を0.3p上回る68%でした。

【算数】平均正答率は全国と比べて **3p低い55%**ですが、北海道の平均と同率でした。昨年度は全国平均より1.9p低い59%でした。

【理科】平均正答率は全国と**同率の57%**です。昨年度、理科は実施していません。

* 下表（）内の数値は、6年度

国語	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	14 (19)	9.0/14 (9.6/14)	64 (68)
北海道(公立)	34,203	9.2/14	65
全国(公立)	936,137	9.4/14	66.8

算数	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	14 (19)	8.8/14 (9.5/14)	55 (59)
北海道(公立)	34,203	8.8/14	55
全国(公立)	936,399	9.3/14	58

理科	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	14	9.7/17	57
北海道(公立)	34,220	9.6/17	56
全国(公立)	936,576	9.7/17	57.1

2 中学校3年生～国語は全国を上回ったものの、数学は下回り、理科はIRTスコアでやや下回る～

【概要】利尻富士町の中学校の平均正答率は、国語は全国を上回りましたが、数学は下回る結果になりました。

【国語】平均正答率は全国と比べて **9.7p高い64%**で、昨年度は全国平均より 3.9p高い62%でした。

【数学】平均正答率は全国と比べて **3.3p低い45%**で、昨年度は全国平均より 2.5p低い50%でした。

【理科】平均正答数は、全国と比べて **0.5p高い3.4**です。昨年度、理科は実施していません。

* 下表（ ）内の数値は、6年度

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	7 (17)	9.0/14(9.3/15)	64 (62)
北海道(公立)	33,467	7.6/14	54
全国(公立)	870,560	7.6/14	54.3

数学	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
利尻富士町	7 (17)	6.7/15(8.1/16)	45 (50)
北海道(公立)	33,474	7.0/15	47
全国(公立)	871,097	7.2/15	48.3

理科	生徒数	平均正答数	平均IRTスコア
利尻富士町	8	3.4/6	493
北海道(公立)	33,370	3.0/6	505
全国(公立)	864,634	2.9/6	503

*中学校理科は、タブレットで実施され、実施日により各校で出題される問題が違います。上記6問のほか、1校あたり4問出題され、2校ともに4問中2問が全国正答率を上回っています。

*IRT：国際的な学力検査や試験で採用されている理論で、異なる問題から構成される試験や調査の結果を、同じ尺度で比較できるものです。

II 問題別調査結果

1 小学校 国語

(1) 「知識及び技能」の結果

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は92.9%で、全国より16p高い結果です。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」の結果

○「読むこと」の平均正答率については、全国とほぼ同率です。

●「書くこと」の平均正答率は61.9%で、全国より7.6p低い結果です。

●「話すこと・聞くこと」の平均正答率は57.1%で、全国より9.2p低い結果です。

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体の平均正答率		14	64	65	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	92.9	74.8
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	57.1	61.8
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	71.4	80.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.1	65.0
		B 書くこと	3	61.9	68.3
		C 読むこと	4	57.1	56.1
評価の観点	知識・技能	4	78.6	73.0	74.5
	思考・判断・表現	10	58.6	62.4	63.8

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
知識・技能 【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す（このみ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	100.0	81.6	81.6	0.0	7.2	7.2
		85.7	68.1	72.1	0.0	4.7	4.3
書くこと 山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	57.1	80.2	81.8	0.0	0.7	0.8
話すこと・聞くこと 【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめができるかどうかをみる	50.0	72.6	73.7	0.0	0.4	0.6

2 小学校 算数

(1) 「領域別」の結果

○「測定」の平均正答率が 60.7%で、唯一全国を 5.9p 上回りました。

(2) 「評価の観点」の結果

●「知識・技能」の平均正答率 64.3%に比べ、「思考・判断・表現」の平均正答率は全国を 5.4p 下回る 42.9%となっています。

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体の平均正答率		16	55	55	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	59.8	58.6	62.3
	B 図形	4	50.0	53.9	56.2
	C 測定	2	60.7	50.7	54.8
	C 変化と関係	3	50.0	55.4	57.5
	D データの活用	5	55.7	60.9	62.6
評価の観点	知識・技能	9	64.3	62.6	65.5
	思考・判断・表現	7	42.9	45.5	48.3

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
図形 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかを見る	92.9	76.8	79.3	0.0	1.0	1.0
測定 はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る	78.6	57.0	60.9	7.1	4.5	4.2
データの活用 示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る	50.0	72.1	71.6	0.0	3.3	3.5
数と計算 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうかを見る	21.4	18.6	23.0	21.4	18.1	15.7

3 小学校 理科

(1) 「区分・領域別」の結果

○ 「生命」を柱とする領域では、平均正答率が 58.9%で、全国を 6.9p 上回りました。

● 「エネルギー」を柱とする領域では、平均正答率が 41.1%で、全国を 5.6p 下回りました。

(2) 「評価の観点」の結果

両区分ともに、全国平均と近似しています。ただし、正答率については、領域を問わず問題によってかなりのバラつきがみられます。

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体の平均正答率		17	57	56	57.1
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	41.1	44.8
		「粒子」を柱とする領域	6	51.2	50.7
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	58.9	51.9
		「地球」を柱とする領域	6	64.3	65.9
評価の観点	知識・技能	8	56.3	54.2	55.3
	思考・判断・表現	9	57.9	58.2	58.7

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
生命 ヘチマの花のおしへとめしへについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかを見る	85.7	68.5	70.7	0.0	1.4	1.5
ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかを見る	71.4	48.3	45.6	0.0	0.7	0.8
エネルギー・粒子 アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る	7.1	9.4	10.6	0.0	0.5	0.6
粒子 水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し表現することができるかどうかを見る	21.4	52.7	50.6	14.3	6.2	6.1

4 中学校 国語

(1) 「知識及び技能」の結果

● 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は 42.9%で、全国より 5.2p 低い結果です。

(2) 「思考力・判断力・表現力等」の結果

○ いずれの区分も全国を大きく上回っており、とくに「話すこと・聞くこと」の平均正答率は 75%で、全国よりも 21.8p 上回っています。

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			
			利尻富士町	北海道	全国	
全体		14	64	54	54.3	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	42.9	48.8	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	75.0	53.8	
		B 書くこと	5	60.0	51.4	
		C 読むこと	3	71.4	62.0	
評価の観点		知識・技能	2	42.9	48.8	
		思考・判断・表現	12	67.9	54.8	
					55.3	

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
話すこと・聞くこと スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る	71.4	41.2	38.1	0.0	0.3	0.3
「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかを見る	100.0	73.7	73.4	0.0	0.5	0.6
読むこと 物語の始めに問い合わせが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかを見る	100.0	79.1	80.0	0.0	0.4	0.5
書くこと 手紙の下書きを見直し、誤って書かれていた漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立て、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る	71.4	55.4	57.3	28.6	35.2	33.5

5 中学校 数学

(1) 「領域別」の結果

- 「数と式」の平均正答率が31.4%で、全国を12.1p下回っています。

(2) 「評価の観点」の結果

- 「知識・技能」の平均正答率46%は、全国を8.4p下回っていますが、「思考・判断・表現」の平均正答率は全国を3.8p上回っています。

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			利尻富士町	北海道	全国
全体		15	45	47	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	31.4	43.4	43.5
	B 図形	4	46.4	44.9	46.5
	C 関数	3	47.6	46.6	48.2
	D データの活用	3	61.9	54.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	46.0	53.6	54.4
	思考・判断・表現	6	42.9	36.4	39.1

平均正答率の高かった問題と低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
		利尻富士町	北海道	全国	利尻富士町	北海道	全国
図形 平行四辺形A B C Dの辺B C、D Aを延長した直線上にB E = D Fとなる点E、Fを取り、辺A Bと線分F Cの交点をG、辺D Cと線分A Eの交点をHとしたとき、四角形A G C Hが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかを見る	57.1	30.1	33.2	0.0	34.8	31.5
関数 A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを見る	57.1	36.1	38.0	14.3	37.8	35.0
数と式 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかを見る	0.0	40.5	31.8	0.0	0.5	0.7
関数 一次関数y = 6x + 5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数y = a x + bについて、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかを見る	14.3	33.1	34.7	14.3	9.7	8.0

6 中学校 理科

(1) 「区分・領域別」の結果

○「粒子」領域では、平均正答率が、全国を上回る傾向にあります。

(2) 「評価の観点」の結果

○全体に「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の方が、正答率が高い傾向にあります。

問題別集計結果

評価 の 観点	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			利尻富 士町	北海道	全国	利尻富 士町	北海道	全国
知識 ・ 技能	エネルギー 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかを見る	50.0	52.1	51.9	0.0	0.2	0.2
	生命 生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る	25.0	29.5	29.7	0.0	0.1	0.2
	粒子 塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかを見る	37.5	46.4	44.9	0.0	7.9	8.5
思考 ・ 判断 ・ 表現	粒子 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかを見る	75.0	52.0	46.2	0.0	6.8	8.0
	地球 地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかを見る	50.0	36.0	36.2	0.0	0.5	0.6
	粒子 水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかを見る	100.0	79.3	79.4	0.0	10.3	9.9

III 児童・生徒質問調査の結果

1 自分自身のこと

(1) 主体性

回答1+2のプラス評価は、小中ともに全国並みです。

これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	35.7	29.0	37.5	23.4
2 どちらかといえば、当てはまる	50.0	51.3	37.5	54.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.1	17.1	25.0	19.0
4 当てはまらない	7.1	2.6	0	2.7

(2) 自己肯定感

回答1+2のプラス評価は、小学校では71.4%で、全国の86.9%より低いですが、中学校ではやや上回っています。

自分には、よいところがあると思いますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	35.7	47.3	12.5	40.7
2 どちらかといえば、当てはまる	35.7	39.6	75.0	45.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.3	9.1	12.5	10.5
4 当てはまらない	14.3	3.9	0	3.2

(3) 夢実現

回答1+2のプラス評価は、小学校では92.8%で、全国の83.1%より高いですが、中学校では50%で、全国の67.5%より低くなっています。

将来の夢や目標を持っていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	85.7	60.7	25.0	35.5
2 どちらかといえば、当てはまる	7.1	22.4	25.0	32.0
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.1	10.3	37.5	21.9
4 当てはまらない	0	6.6	12.5	10.2

(4) 向上心

回答1+2のプラス評価は、小学校では85.7%で、全国の81.7%より高いですが、中学校では62.5%で、全国の77.5%より低くなっています。

分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 できている	21.4	32.6	37.5	27.4
2 どちらかといえば、できている	64.3	49.1	25.0	50.1
3 どちらかといえば、できていない	7.1	15.3	25.0	19.2
4 できていない	7.1	2.8	0	2.8

2 人の関わり

(1) 多様性

回答1+2のプラス評価は、小学校では85.7%で、全国の83.3%より高いですが、中学校では75%で、全国の84.3%より低くなっています。

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	28.6	36.5	12.5	32.6
2 どちらかといえば、当てはまる	57.1	46.8	62.5	51.7
3 どちらかといえば、当てはまらない	14.3	13.1	25.0	12.3
4 当てはまらない	0	3.3	0	2.8

(2) 協働性

回答1+2のプラス評価は、小学校では92.8%で、全国の91.9%とほぼ同率ですが、中学校では87.5%で、全国の91.9%より低くなっています。

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	71.4	49.9	37.5	45.5
2 どちらかといえば、当てはまる	21.4	42.0	50.0	46.4
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.1	6.4	12.5	5.3
4 当てはまらない	0	1.5	0	1.3

(3) 学校生活への意欲

回答1+2のプラス評価は、小学校では85.8%で、全国の86.5%とほぼ同率ですが、中学校では1の回答が0で、2の回答が50%となっており、全国の86.1%より大幅に低くなっています。また、3+4のマイナス評価については50%となっています。

学校に行くのは楽しいと思いますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	42.9	49.9	0	45.6
2 どちらかといえば、当てはまる	42.9	36.6	50.0	40.5
3 どちらかといえば、当てはまらない	7.1	9.1	25.0	9.9
4 当てはまらない	7.1	4.3	25.0	3.7

3 地域との関わり

(1) 学校と地域の関係

回答1+2のプラス評価は、小学校・中学校ともに50%で、それぞれ全国の39.4%と29.5%を上回っています。学校支援など地域の指導者がかかわっている成果が見て取れます。

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）	小学校 (%)		中学校 (%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	42.9	16.7	25.0	11.7
2 どちらかといえば、当てはまる	7.1	22.7	25.0	17.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	28.6	32.0	50.0	34.3
4 当てはまらない	21.4	28.6	0	36.0

(2) 地域への参画意欲

回答1+2のプラス評価は、小学校では78.6%で、全国の81.3%をやや下回っていますが、中学校では100%で、全国の75.3%を上回っています。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小学校 (%)		中学校 (%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 当てはまる	28.6	33.8	25.0	22.4
2 どちらかといえば、当てはまる	50.0	47.5	75.0	52.9
3 どちらかといえば、当てはまらない	21.4	14.2	0	18.8
4 当てはまらない	0	4.4	0	5.6

4 ICTの活用

回答1+2の「ほぼ毎日」が、小学校では64.3%で、全国の46.7%を上回っており、中学校でも87.5%と全国の53.2%を大幅に上回っています。家庭等、校外での活用については、中学校の「30分以上～2時間」で50%と、全国の25.7%のほぼ倍となっています。小中ともに、「全くしない」ことが皆無の状況です。

これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 ほぼ毎日（1日に複数の授業）	21.4	24.5	37.5	29.5
2 ほぼ毎日（1日に1回の授業）	42.9	22.2	50.0	23.7
3 週3回以上	7.1	25.0	12.5	23.3
4 週1回以上	28.6	18.0	0	15.7
5 月1回以上	0	7.2	0	5.3
6 月1回未満	0	3.1	0	2.0

学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 3時間以上	7.1	4.0	0	2.7
2 2時間以上、3時間より少ない	0	4.6	0	3.2
3 1時間以上、2時間より少ない	7.1	11.0	37.5	7.8
4 30分以上、1時間より少ない	42.9	22.9	12.5	17.9
5 30分より少ない	42.9	32.0	50.0	35.9
6 全くしない	0	25.4	0	30.3

5 望ましい生活習慣・学習習慣の確立

(1) 規則正しい生活習慣

小学校に比べると中学校では、「朝食を毎日食べない」ことや不規則な就寝傾向が認められます。

朝食を毎日食べていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 している	71.4	83.3	62.5	78.7
2 どちらかといえば、している	14.3	10.4	12.5	12.5
3 どちらかといえば、していない	7.1	4.8	0	6.0
4 していない	7.1	1.6	25.0	2.6

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 している	28.6	38.9	25.0	34.0
2 どちらかといえば、している	42.9	43.0	37.5	47.0
3 どちらかといえば、していない	28.6	15.1	37.5	16.1
4 していない	0	3.0	0	2.7

(2) 家庭学習

家庭での勉強時間が1時間以上の割合は、小学校では21.4%で、全国の54%を大幅に下回り、中学校では50%で、全国の61.6%を下回っています。

学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 3時間以上	0	12.1	12.5	9.9
2 2時間以上、3時間より少ない	0	12.8	12.5	20.9
3 1時間以上、2時間より少ない	21.4	29.1	25.0	30.8
4 30分以上、1時間より少ない	50.0	27.4	25.0	19.1
5 30分より少ない	21.4	12.9	25.0	11.3
6 全くしない	7.1	5.7	0	7.7

家庭での勉強時間が1時間以上の割合は、小学校では14.3%で、全国の21.5%を下回り、中学校では25%で、全国の32.5%を下回っています。小学校では、「全くしない」が35.7%となっています。

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	小学校(%)		中学校(%)	
	利尻富士町	全国	利尻富士町	全国
1 3時間以上	0	7.4	0	5.3
2 2時間以上、3時間より少ない	0	4.4	0	8.5
3 1時間以上、2時間より少ない	14.3	9.7	25.0	18.7
4 30分以上、1時間より少ない	50.0	25.6	25.0	25.4
5 30分より少ない	0	35.2	37.5	24.1
6 全くしない	35.7	17.5	12.5	15.4

IV 結果をふまえた今後の方策

教育委員会では、各校の分析と取り組みについて校長会や教頭会で協議し、今回の結果をふまえて、小中一貫教育を軸とした以下のような取り組みを進めていきます。

1 学力結果に基づいた方策

国語については、小学校において「知識・技能」の問題が定着している一方、「思考力、判断力、表現力」に課題があることから、読書習慣や他者の話を理解し把握する力を伸ばすことを目指します。具体的には、授業において、高い定着率を示した「言葉の知識」（漢字や語句の正確な知識）を、文章の読み解きや表現活動の際に意識的に活用する場を多く設定し、「言葉の特徴や使い方」の知識をベースに、物語文や説明文の論理構成や筆者の意図を深く読み取る活動についても強化させます。中学校においては、多角的な視点やより論理的に思考できる力を醸成する授業の工夫について進めます。

算数・数学では、小学校での基礎学習と授業での理解をベースに、中学校においても基礎知識の定着を最優先しつつ、生徒の強みである思考力を応用させます。「数と式」領域を中心に、A I ドリル「キュビナ」などのICT教材を活用し、個々の習熟度に合わせた反復練習と定着度チェックを徹底させます。小中学校での「数と計算」領域の苦手な概念（例：分数の加法など小学校の低かった問題）を特定し、小中連携で補習や復習の機会を設けます。また、「思考・判断・表現」問題の解説や指導において、生徒に高い思考力を示す問題（例：関数分野の運賃説明）を解くプロセスを言語化させ、基礎知識の抜けによる失点を防ぐ指導を強化させます。

なお中学校では、生徒の思考を止めない授業工夫など、改善の効果が表れている例もあることから、こうした授業事例を小中間の研修に取り入れることで、個々の授業改善に生かせるよう教員の意識改革を促していきます。

2 児童・生徒質問調査の結果に基づいた方策

中学校の学校生活への意欲が大幅に低い点については、学校生活の魅力向上と自己肯定感を向上させるため、生徒の意見を反映した学校行事・特別活動の企画・実施を促し、「学校は自分たちがつくる場」という意識を高め、また、学校支援活動（地域の方の授業参加など）をさらに充実させ、社会とのつながりの中で自己有用感や役割意識を育みます。

学力の定着度をよりいっそう充実させるため、各授業において家庭学習へつなげることを目標にした「まとめと振り返り」を行なうことで、学校と家庭での学習に具体的な接続点を持たせます。町からの助成制度がある各種検定受検（漢検、算・数検、英検）の勧奨やチャレンジ精神を促すことで、児童生徒の学習意欲の向上を図るべく具体的な目標設定や計画的な指導を重視していきます。